

(36年度)

養 鱒 餌 料 試 験

(市 販 配 合 餌 料 比 較 飼 育)

技 師 立 川 互

1 方 法

市販配合餌料次の3種の製品を使用して、比較飼育試験を行った。

- A オリエンタルます用粉末
- B 日配ます用粉末
- C 甲ミールます用粉末

○ 調 餌 方 法

- A 配合餌料100に対し約30~40の熱湯を加えて練る。
- B 配合餌料90に対し小麦粉10を混ぜ、熱湯30~40を加えて練る。
- C 熱湯で練っても粘結性が乏しく、粉状になつて水に散るのでC.M.C.2%を使用した。○
18日目からC.M.C.をやめて、小麦粉10%を混ぜ熱湯30~40を加えて練る方法に変更した。

○ 供 試 魚

ニジマス0年魚平均体重32g

○ 飼 育 条 件

3区とも条件を等しくした。

水 温 10~12.5°C

飼 育 池 約15m²

給 餌 毎日1日1回午前中

○ 試 験 期 間

昭和37年1月9日より4月19日

2 結 果

1) 餌 の 食 い

B区は非常に良いが、A区はやゝ劣り、C区はC.M.C.2%を混ぜたものでは極めて悪く小麦粉10%に切替えてから大分良くなつたが、まだA区よりもやゝ劣るようであつた。

2) 斃 死

B区は最も死魚数少なく、当初若干あつたが、後期には非常に少なくなつた。全期間の斃死率は7,3%であつた。

A区は全期間を通じて若干であり、19%であつた。

B区は甚だしい斃死を出し、期を迫るごとに増加する傾向を示した。全期間で41%が死んだ。

3 餌料効率

A区C区では多数の不明魚及び死魚がでたので数値を比較検討することができなかつた。B区は小麦粉10%を混合したもので餌料効率77,6%であつた。

試 験 結 果 表 (100日間)

		A 区	B 区	C 区
総 尾 数	放 取	418	424	423
	養 上	268	390	197
総 重 量	放 取 Kg	13,6	13,6	13,6
	養 上	13,72	20,76	9,9
平均 体重	放 取 Kg	32,6	32,1	32,2
	養 上	51,2	53,2	50,2
死 魚	尾 数	79	31	174
	重 量	2,583	836	6,212
	斃 死 率	18,9	7,3	41
不 明	尾 数	88	5	52
	推 定 重 量 gr		114	
尾 数 歩 留 %		64	92	46,6
成 長 比 gr		1,57	1,66	1,56
増 重 量 gr			8,110	

使用したが、○
練る方法に変

は極めて悪く
うであつた。

		A 区	B 区	C 区
原料給餌量 g ^r		9,502	11,633	9,344
無水物換算			10,440	
餌料効率%			77.6	
死魚数の 旬別内分	1~10日	6	6	6
	11~20〃	8	6	12
	21~30〃	11	9	10
	31~40〃	12	2	9
	41~50〃	17	2	10
	51~60〃	2	0	9
	61~70〃	7	3	34
	71~80〃	7	0	20
	81~90〃	4	0	32
	91~100〃	5	3	32